

「3つのポリシー」に関するアセスメント報告書

教学マネジメント委員会

本報告書は、教学マネジメント委員会が策定した「3つのポリシー」に関するアセスメントポリシー（2019年版）に基づいて、教学マネジメント委員会 IR 部門が各種データを収集、分析、検証した結果をまとめたものである。収集した主なデータは、学則、キャンパスガイド、大学案内、入学者募集要項、ホームページ、授業評価、学生調査（新入生調査、学生生活実態調査、学習行動調査、満足度調査）、累積 GPA、成績評価である。

検証は、要約した所見（データに基づく事実の認識）を記載し、必要に応じてアセスメント（評価、解釈）とアクション（改善案）を追記した。アクションの立案に当たっては、文部科学省平成 30 年度私立大学等改革総合支援授業調査票を参考にした。

1. 重点取組課題

アクション（改善案）のうち、優先順が高く、早急に改善の取り組みが必要なものを以下に列挙する。

重点取組課題	内容	担当部署
「3つのポリシー」の見直し	・教育理念から DP までの階層構造（教育理念→教育目的→教育目標→DP）の明確化、言語化、キャンパスガイドへの記載	教学マネジメント委員会
	・短大のナンバリングとカリキュラムマップの作成とキャンパスガイドへの記載	短大教授会
	・大学案内への「3つのポリシー」の記載	入試広報委員会
	・「3つのポリシー」の在学生への周知	各学科
キャップ制度の見直し	・キャップ制度の見直し ・GPA 優良学生への上限緩和	教務委員会
GPA 制度の見直し	・GPA の活用方法の具体化とキャンパスガイドへの記載	教務委員会
シラバスの見直し	・シラバス記載項目の見直し（授業外学習時間、実務経験を有する教員）、記載マニュアル作成 ・シラバス作成の FD 実施 ・シラバスのチェック体制の見直し・実施・実施状況の把握	教学マネジメント委員会
授業改善	・学生への各種フィードバックの充実 ・授業外学習時間を増やす工夫 ・主体的学習を促す授業の工夫 ・問題解決能力を育成する授業の工夫 ・授業改善に関する FD 実施	各教員 教学マネジメント委員会
学習成果の把握	・DP に掲げる能力に対応した主体的学習成果を把握するための学生調査の調査項目の見直し、調査の実施、集計	IR 部門
	・DP に掲げる能力に対応した客観的学習成果を把握するための新たな評価指標の開発	各学科
卒業生調査	・卒業生の主な就職先を対象にした調査票の作成、実施、集計	就職委員会

2. ディプロマポリシー (DP) とカリキュラムポリシー (CP) の検証

(1) DP、CP の策定・公表・周知

1) DP・CP を策定している。

所見：

- ・策定している。(資料編 3～5 ページ)

2) DP は、各学部・学科の教育目標を具体的能力として適切に表現している。

所見：

- ・学則第 1 条には、本学の教育理念と教育目的を記載している。(資料編 1 ページ)
- ・キャンパスガイドには、各学部の教育理念、教育の基本方針、教育目的を記載しているが、教育目標は看護学科のみが記載し、その他の学科は記載していない。(資料編 2～3 ページ)
- ・大学のキャンパスガイドでは、教育理念等の記載について冒頭部分と各学科部分に重複がある。

アセスメント：

- ・教育理念は、学則において、「建学の精神」に基づいて育成する人材の社会的使命、方向性を適切に表現している。
- ・教育目的は、学則において、教育理念に基づいて育成する人材像を適切に表現している。
- ・看護学科の教育目標はキャンパスガイドに記載しているが、大学を主語として「・・・の能力を涵養する」などと表現すべきところを、学生を主語とする「・・・できる」で表現しており、DP の表現との区別ができていない。また、内容的にも DP と同じ水準の記載に留まっており、教育理念から DP までの階層構造 (ブレイクダウン) が明確でない。
- ・DP は、学生が卒業時に身につけるべき能力 (知識、技能、態度) を適切に表現している。

アクション：

- ・教学マネジメント委員会は、教育理念から DP までの階層構造 (教育理念→教育目的→教育目標→ディプロマポリシー→カリキュラムポリシー) の表現に関する形式フォーマットを作成し、各学部・学科に内容の見直しを指示する。
- ・教務委員会は、各学部学科で見直された教育理念等を次年度のキャンパスガイドへ反映させる。
- ・用語の整理
教育理念：大学の使命、方向性、教職員が教育研究活動を行う上での行動規範
教育目的：育成する人材像
教育目標：育成する人材が持つべき能力の涵養 (主語は大学、教育目的をブレイクダウンしたもの)
DP：卒業時に学生が身につけている能力 (主語は学生、教育目標をブレイクダウンしたもの)
CP：DP を実現するためのカリキュラム編成及び実施の方針

3) CP は、DP と整合性がとれている。

所見：

- ・「・・・の能力を獲得するため、・・・の科目を配置する」等、概ね DP に記載している身につけるべき能力と開講科目配置の関係を適切に表現している。(資料編 5～8 ページ)
- ・大学では、ナンバリングとカリキュラムマップをキャンパスガイドに記載しているが、短大は記載していない。

アセスメント：

- ・ナンバリングとカリキュラムマップは、入学から卒業までの学習の体系性、順序性を学生に明示するものなので、キャンパスガイドに記載する必要がある。

アクション：

- ・短大は、大学の様式を参考にしてナンバリングとカリキュラムマップを作成し、キャンパスガイドに掲載する。

4) DP・CPを公表している。

所見：

- ・DP・CPは、キャンパスガイドとホームページに記載し、公表している。
- ・大学案内（2020年版）と入学者募集要項には、APを記載しているが、DP・CPを記載していない。

アセスメント：

- ・大学案内には、育成する人材が身につける能力を「DP」として明記する必要がある。

アクション：

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・入試広報委員会は、大学案内に「3つのポリシー」を記載する方法を検討し、検討結果を来年度の大学案内と入学者募集要項に反映させる。 |
|--|

5) DP・CPを在学生に周知している。

所見：

- ・入学時のオリエンテーションにおいて、キャンパスガイドを用いて説明している。
- ・新入生アンケートでは、「3つのポリシー」について、大学の63.4%、短期大学の71.4%が「よくわかっている」または「大体わかっている」と回答した。（資料編9ページ）

アセスメント：

- ・「わかっている」と回答した学生は60～70%にとどまっており、周知は十分とは言えない。

アクション：

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・各学科は、オリエンテーションだけでなく、初年次教育に相当する授業科目等で大学での勉強方法を説明する際に、「3つのポリシー」の意義（本学教育の設計図であること、学習のロードマップであること、卒業時の到達目標であることなど）を説明するように努める。 |
|---|

(2) 管理・運営体制

1) 教学マネジメント委員会に学外者及び学生が参加している。

所見：

- ・2019年度7月の大学評議会で教学マネジメント委員会規程を見直し、学外者及び学生代表の意見を聞く機会を設けるように改正した。

2) 教学マネジメント委員会を年2回開催している。

所見：

- ・2019年度は、最低でも年3回以上開催する予定である。

3) 履修単位上限を設定している。（キャップ制）

所見：

- ・大学は、キャンパスガイドの「6.履修」の項に記載している。
福祉心理学科：年間60単位、看護学科：年間55単位
- ・短大のキャンパスガイドには、記載されていない。

アセスメント：

- ・大学の認証評価の基準では年間50単位未満となっていることから、見直しが必要である。
- ・短大においても単位の実質化の観点からキャップ制を導入する方が望ましい。

アクション：

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・教学マネジメント委員会は、大学と短大のキャップ制度を見直し、検討結果をキャンパスガイドに反映する。・その際、資格取得のための単位などの除外規定、GPA優良学生への上限緩和などについても検討する。 |
|---|

4) GPA を履修指導に活用している。

所見：

- ・大学のキャンパスガイドには、記載されていない。
- ・短大は、「GPA」の項に記載している。

アセスメント：

- ・キャンパスガイドにおける GPA 活用方法に関する記載が具体的でなく、不十分である。

アクション：

- ・教学マネジメント委員会は、GPA の具体的な活用方法を検討し、検討結果をキャンパスガイドに反映する。
- ・活用方法の例示：GPA が低い学生（下位 4 分の 1）への学習指導、GPA が高い学生への履修単位上限の緩和、退学勧告等への活用など

(3) 教育の実施

1) 全開講科目のシラバスを作成し、公表している。

所見：

- ・ホームページで公表している。

2) シラバスの内容をチェックし、改善のための指導を行っている。

所見：

- ・昨年度の教学マネジメント委員会において、教務委員が入力されたシラバスの形式チェックを行い、改善が必要なものは、学部長が当該教員を指導することを申し合わせた。

アセスメント：

- ・シラバスチェックの実施状況と実施結果の把握は徹底しなかった。

アクション：

- ・教学マネジメント委員会は、シラバスチェックの実施手順を作成・周知し、実施結果を把握する。

3) 教員は、シラバスに基づいて授業を実施している。

所見：

- ・授業評価では、「授業内容はシラバスに沿ったものですか」の得点に対して「教員はシラバスをみるように促しましたか」の得点が低かった。（資料 9 ページ）

アセスメント：

- ・教員は、シラバスを授業で十分に活用できていない。

アクション：

- ・各教員は、学習の助けになるシラバスの作成し、授業中にシラバスの活用を促す発言を増やす。
- ・教学マネジメント委員会は、シラバス作成方法に関する FD を実施する。
- ・明記が必要な項目の例示：
 - ・事前事後学習の課題
 - ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク、タブレット端末等を利用した双方向型授業など
 - アクティブラーニングに相当する授業方法に関すること
 - ・実務経験のある教員か否か

4) 教員は、適切な授業改善の手立てを実施している。

所見：

- ・授業評価では、「教材など、全体としてよく準備された授業でしたか」「教員は授業の中で理論や考え方、専門用語をわかりやすく説明していましたか」「黒板や映像資料は授業内容の理解に役立ちましたか」の得点が、全体の平均点を上回っていた。一方、「小テストやレポートなどを実施し、コメント等を返しましたか」の得点が平均点を下回っていた。（資料編 9～10 ページ）

- ・学習行動調査の学習経験に関する質問では、「授業内容に関するコメントや意見を聞く機会がある授業」「教員・学生間で授業時間内にコミュニケーションが取りやすい授業」「グループワークやディスカッションなど協同作業の機会がある授業」「自分に役立つと感じる授業」では、「経験している」または「ときどき経験している」と回答した学生が概ね 80%以上いた。一方、「レポートなどの提出物に教員のコメント付きで返却される授業」「学生の意見や授業評価の結果を反映させた授業」「楽しいと感じ、やる気が増大する授業」では、「経験している」または「ときどき経験している」と回答した学生が概ね 80%未満にとどまった。(資料編 10～11 ページ)

アセスメント:

- ・アンケート結果より、各教員は、授業の準備、授業中の説明方法、映像資料などにおいて、授業改善のための適切な手立てを実施していることがうかがえる。一方、レポート等返却時のコメントや学生の意見に対するフィードバックでは取り組みが不十分である。

アクション:

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・各教員は、学生が提出したレポート等に対するフィードバックを強化する。 |
|---|

(4) 主観的学習成果 (到達度、満足度)

1) 学生は、主体的に学習している。

所見:

- ・授業評価では、「授業中は熱心に取り組みましたか」の得点が、全体の平均点を上回っていた。一方、「質問や発言などにより、授業に積極的に参加しましたか」の得点が平均点を下回っていた。(資料編 11 ページ)
- ・学習行動調査では、「授業の予習をする」「授業の復習をする」「授業への質問があるときは教員に伝える」では、「あまりあてはまらない」と「全くあてはまらない」を合わせて概ね 50%を占めていた。(資料編 12～13 ページ)

アセスメント:

- ・主体的な学習習慣の獲得は、不十分である。

アクション:

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・各教員は、学生の主体的学習を促すための仕組みを毎回の授業に取り入れる工夫をする。 ・教学マネジメント委員会は、主体的学習を促す授業方法に関する FD を実施する。 |
|---|

2) 学生は、十分な学習時間を確保している。

所見:

- ・授業評価では、1つの1つの授業の予習・復習に費やした学習時間は、約1時間であった。(資料編 13 ページ)
- ・学習行動調査 (資料編 13～14 ページ)
 - 「予習復習のための時間」は、大学で 4.0 時間/週、短期大学部で 1.8 時間/週であった。
 - 「課題やレポート作成のための時間」は、大学で 5.6 時間/週、短期大学部で 3.6 時間/週であった。
 - 「資格免許取得のための時間」は、大学で 3.9 時間/週、短期大学部で 1.8 時間/週であった。

アセスメント:

- ・1日当たりの学習時間に換算すると、大学で 1.9 時間/日、短期大学部で 1.0 時間/日であった。

3) 学生は、自己の成長を実感している。

所見:

- ・学生生活実態調査では、「大学生活において、どの程度できているか」という質問について、「自己の将来の方向性を見つける」「将来の仕事に役立つような力を身につける」の項目で「できている」「少しできている」を合わせて概ね 80%を占めていた。(資料編 14～16 ページ)
- ・満足度調査では、「これまでの大学生活の中で、どの程度身についたと思うか」という質問について、「人と協力しながら活動すること」では、「かなり身についた」「ある程度身についた」と回答したものが 90%近く占めた。一方、「現状を分析し、問題点や課題を発見すること」「問題が生じたときに適切に対処する力」では 80%前後にとどまった。(資料編 16～17 ページ)

・主観的学習成果の調査項目と DP の関係

大学の DP	短大の DP	学生調査の主な質問項目
人への関心と学問の理解	知識・理解	「授業の予習・復習をする」 「授業への質問があるときは教員に伝える」 「専門に限らず幅広い知識や教養を身につける」
柔軟な思考と表現力	汎用的技能	「コンピュータを用いた課題や発表資料の作成方法」
知識の応用力と判断力	総合的な学習経験と創造的思考力	「専門分野について学ぶ」 「将来の仕事に役立つような力を身につける」 「就職につながる学習や資格取得に力を入れる」 「現状を分析し、問題点や課題を発見すること」 「問題が生じたときに適切に対処する力」
未知の領域に挑む意欲	態度・志向性	「授業でわからなかったことは自分で調べる」 「自己の将来の方向性を身につける」 「将来の目標を立て実現に向かって努力すること」
地域の貢献する積極的態度		「グループワークやディスカッションでは積極的に参加する」 「大学・学科の行事に参加する」 「友人をつくり、人間関係を豊かにする経験をする」 「ボランティアなど他人のために行動する経験をする」 「人と協力しながら活動すること」

アセスメント：

- ・ほとんどの学生は自己の成長を実感しているが、問題解決能力の獲得に関する実感が、他の能力に比べてやや低い。
- ・DP の項目と学生調査の質問項目の対応は、十分とは言えず、見直しが必要である。

アクション：

- ・各教員は、授業の重点を「知識・技術の伝達」から「問題解決能力の獲得」へ移行させる工夫をする。
- ・教学マネジメント委員会は、問題解決能力を育成する授業方法に関する FD を実施する。
- ・IR 部門は、DP に掲げる能力に対応した主観的学習成果を評価できるように、各種学生調査の質問項目を見直す。

4) 学生は、自己の学習成果に満足している。

所見：

- ・満足度調査では、「教員と学生の一般的な人間関係」「チューター及びゼミ教員の指導・対応」「就職支援・就職相談などの就職関連サービス」「身体面や精神面についての相談サービス（保健室、心理相談窓口）」の項目で、「とても満足である」と「やや満足である」を合わせて概ね 90% を占めていた。一方、「専門科目の教育の質」「専門科目の授業方法や評価のあり方」「教養科目の教育内容の質」「教養科目の教育方法や評価のあり方」「事務（教務課、学生課など）の学生への対応」は、80% 前後にとどまった。（資料編 18～19 ページ）
- ・「本学の学生であることにどの程度満足していますか」という質問に対し、大学では 77.2% が、短期大学部では 80.3% が「とても満足している」「まあ満足している」と回答した。（資料編 19 ページ）

(5) 客観的学習成果到達度

1) 学生は、DP で想定している能力を身に付けている。

所見：（資料編 20 ページ）

- ・累積 GPA の平均は、大学で 2.48、短大で 2.40 であった。下位 4 分の 1 の GPA は、大学で 1.79、短大で 1.89 であった。
- ・GPA の分布は、幅広く上位と下位の二相性に分かれる傾向がみられた。（資料編に掲載せず）

- ・看護師国家試験の合格率は 87.5%、保健師国家試験の合格率は 66.7%、社会福祉士国家試験の合格率は 0.0%、精神保健福祉士の合格率は 50.0%であった。

アセスメント：

- ・各学科が育成する人材の客観的学習成果を評価するデータが不足している。

アクション：

- ・各学科は、DP に掲げた能力の獲得を客観的に評価するための評価項目を作成し、データを収集する。

2) 教員は、適切な成績評価を実施している。

所見：

- ・成績評価の分布は、大学で秀 14.2%、優 38.8%、良 26.7%、可 19.2%、不可 1.1%、短大で秀 15.4%、優 31.2%、良 29.9%、可 22.8%、不可 0.8%であった。(資料編 20 ページ)

アセスメント：

- ・概ね、適切な成績評価が行われている。

3. AP の検証

(1) AP の策定・公表

1) AP は、DP に記載している能力を身に付ける前提として求める学習成果を明示している。

所見：

- ・AP を策定し、入学の前提となる学習成果について「・・・を身につけることができる人」「・・・を理解している人」等の表現で記載している。(資料編 21～22 ページ)

2) 学習成果は、「学力の 3 要素」に対応している。

所見：

- ・概ね、「学力の 3 要素」に対応した内容を記載している。(資料編 21～22 ページ)
知識・技能：「高等学校までに履修する教科の基本的内容」「基礎学力」等
思考力・判断力・表現力等：「柔軟な考え方」「自分を表現」「グローバルな思考」等
主体性・多様性・協働性：「自分の考え」「新しいことに挑戦」「他者とのかかわり」等

3) AP を、公表している。

- ・キャンパスガイド、ホームページ、大学案内 (2020 年版)、入学者募集要項に記載して、公表している。

(2) 選抜方法

1) 多様な背景を持つ学生の受け入れる入試区分を設けている。

所見：

- ・多様な背景を持つ受験者 (改革総合支援の条件：以下のうち 4 つ以上を入学者選抜要項に明記)：
 - ア 専門高校から進学を希望する者
 - イ 帰国生徒、日本語を母国語としない生徒、留学生 (帰国子女入試、外国人 A0 入試)
 - ウ 特別な支援を必要とする者
 - エ 高等学校や大学の中退等で再チャレンジを志す者 (A0 入試)
 - オ 学び直しや新しい分野の学修をしたい社会人 (社会人 A0 入試)
 - カ 地域に貢献したい意欲を有する者
 - キ 科学や芸術などの特定の分野で卓越した能力を磨いてきた者 (指定校推薦選抜、一般推薦選抜)

2) 各入試区分の選抜方法は、「学力の 3 要素」を多面的に評価する選考方法を採用している。

所見：

- ・大学のセンター試験利用入試と短大の社会人 A0 入試が 1 要素の選考方法になっているが、その他の入試は 2 要素以上を採用している。(資料編 23 ページ)

(3) 入学前教育

1) すべての入試区分で、入学予定者に対して入学前教育を実施している。

所見：

- ・実施している。

2) すべての入試区分で、入学前教育の課題の提出を義務付けている。

所見：

- ・実施している。

(5) 入学後の追跡調査

1) 入試区分別に、休学・留年・退学の動向を把握している。

所見：

- ・大学の退学率は4年間で4.1%、留年率は6.2%であった。
- ・短大の退学率は2年間で9.0%、留年率1.6%であった。(資料編 24 ページ)

アセスメント：

- ・退学率は短大で高く、留年率は大学で高かった。
- ・退学率の入試区分別の分析では、大学は一般入試で多く、短大では推薦入試が多かったが、母数が少ないための明らかな傾向として評価できない。今後のデータの集積が必要である。

2) 入試区分別に、学年進行に伴う GPA の推移を把握している。

所見：

- ・把握している。(資料編 24 ページ)

(6) 卒業後の追跡調査

1) 卒業生の動向を把握している。

所見：

- ・短大では卒業生の主な就職先を対象にした調査を実施したが、大学では実施していない。

アクション：

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・学生生活委員会は、卒業生の主な就職先を対象にした調査を、毎年度実施する。・調査項目の例示：就職先への定着度：「卒業生に、3年以内の離職はありましたか」
貢献度：「卒業生は、貴施設の業績に貢献していますか」
積極性：「卒業生は、与えられた業務に対して積極的に取り組んでいますか」
主体性：「卒業生は、業務上の課題発見や問題解決に主体的に取り組んでいますか」
満足度：「卒業生は、採用したことに満足していますか」 |
|--|

以上

「3つのポリシー」に関するアセスメント報告書 資料編

1. DP・CPの策定、公表、周知に関する資料

(1) 学則に記載している教育理念、教育目的

1) 教育理念

大学（学則第1条）	短期大学部（学則第1条）
大学学園創始の理念である「人間性の涵養と実学の重視」を建学の精神に掲げ、教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り大学教育を施し、持続可能な社会の進展と福祉社会の実現に貢献できる人材を育成することを目的とする。	「人間性の涵養と実学の重視」という建学の精神に基づき、・・・、もって文化の発展に寄与し、世界の平和と人類の福祉に貢献することを使命とする。

2) 教育目的

大学（学則第1条）		短期大学部（学則第1条）	
現在社会における複雑化した諸問題を、「人間と社会のあり方」の視点から総合的・横断的に、地域に密着した形で教育研究し、自らの力で課題を見出し、最適の解決方法を考え、実行する能力を涵養することを目的とする。		・・・、教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、人格の完成をめざし、一般教養を高めるとともに、専門の学術に関する高度の知識技能を授け、知的、道徳的及び応用的能力のある有為の人材の育成を目的とし、・・・	
人間社会学部福祉心理学科	人間健康学部看護学科	保育学科	食物栄養学科
人々のニーズに応じた援助を医療、福祉、心理などの現場で展開できる幅広い教養及び高度な専門的知識・技術、判断力をもつ人材の育成を目的とする。	生命の尊厳や基本的人権を擁護できる高い倫理観、幅広い教養、豊かな人間性並びに看護の現象・事象に的確に対応できる高度な専門的知識・技術、判断力を備えた看護職者の育成を目的とする。	保育と福祉、教育の視点から人々の健全な成長・発達に貢献できる人材の育成を目的とする。	栄養と食の視点から人々の健康の保持・増進に貢献できる人材の育成を目的とする。

(2) キャンパスガイドに記載されている教育理念、教育の基本方針、教育目的、教育目標

1) 教育理念

人間社会学部福祉心理学科	人間健康学部看護学科	保育学科	食物栄養学科
<p>人類の持続的発展を目指して、現代社会における複雑化した諸問題を、「人間と社会のあり方」の視点から、総合的・横断的に、地域に密着した形で教育研究し、自らの力で最適の課題を見出し、最適の解決方法を考え、実行する<u>能力を涵養する</u>。</p>	<p>人間理解と生命の尊厳を基盤として、情操豊かな人間性と看護実践に関する総合的な能力を養う。さらに、社会の変化に対応できる広い視野を持ち、実践できる人材を育成することによって、人々の健康と福祉の向上に貢献する。また、実践・教育・研究を通して、看護学の発展と看護の質の向上に寄与できる能力を養う。</p>	<p>「建学の精神」として、キャンパスガイド冒頭1ページに記載（本文省略）</p>	

2) 教育の基本方針

人間社会学部福祉心理学科	人間健康学部看護学科	短期大学部	
<p>1. 豊かな人間性を備えた人材の育成 2. 広い視野と基礎的専門性を有し、実践力を身につけた人材の育成 3. 地域社会に貢献できる人材の育成</p>	<p>1. 人間を総合的に理解し、専門的知識や実践能力を身につけた人材の育成 2. 生命の尊厳を理解し、豊かな人間性を備えた人材の育成 3. 社会に貢献できる人材の育成</p>	<p>宇部フロンティア大学短期大学部では、「人間性の涵養と実学の重視」という建学の精神に基づき、「礼節」「自律」「共生」を旨として自身を厳しく律しながら、専門資格の深い知識と技術を、多様な人々の豊かな人生への貢献のために活用し、考え、行動できる人材を育成します。</p>	
		保育学科	食物栄養学科
		<p>本学科では、「人間性の涵養と実学の重視」という建学の精神に基づき、「礼節」「自律」「共生」を旨として自身を厳しく律しながら、<u>保育・福祉・教育の視点から</u>、専門資格の深い知識と技術を、<u>子ども・保護者の側に立って</u>活用し、考え、行動できる人材を育成します。</p>	<p>本学科では、「人間性の涵養と実学の重視」という建学の精神に基づき、「礼節」「自律」「共生」を旨として自身を厳しく律しながら、<u>栄養と食の視点から</u>、専門資格の深い知識と技術を、<u>相手の側に立って</u>活用し、考え、行動できる人材を育成します。</p>

3) 教育目標

記載なし	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間を総合的に理解できる。 2. 幅広い教養と倫理観に基づく行動ができる。 3. 専門的知識に裏付けされた科学としての看護を実現できる。 4. 保健、医療、福祉等の他職種と協働・連携することができる。 5. 自ら学ぶ姿勢を身につけ、看護専門職として自己研鑽できる基礎を培う。 	記載なし	記載なし
------	--	------	------

(3) DP (ディプロマポリシー)

大学	短期大学部		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人への関心と学問の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・人間に対して強い関心を持ち、実践活動を通じて学術を極めることができる。 2. 柔軟な思考と表現力 <ul style="list-style-type: none"> ・柔軟にものごとを考え、人の意見もよく聴いたうえで自分の考えを主張できる。 3. 未知の領域に挑む意欲 <ul style="list-style-type: none"> ・常に新しいことに挑戦するフロンティア精神をもっている。 4. 知識の応用力と判断力 <ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見つけ広い視野から適切な解を探ることができる。 5. 地域に貢献する積極的態度 <ul style="list-style-type: none"> ・ローカルな視点と同時にグローバルな思考力を持ち、地域に主体的に参加できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ・専門領域を学ぶのに必要な、人と人間生活に関する幅広い教養を身につけている。 ・専門資格を取得するのに必要な知識と技能を修得している。 2. 汎用的技能 <ul style="list-style-type: none"> ・情報や知識を収集し、分析した結果を基に論理的に考え、判断し、表現できる。 3. 態度・志向性 <ul style="list-style-type: none"> ・他者に配慮し、他者と協調・協働しながら、自らの役割を見出し行動できる。 ・「礼節」「自律」を旨として自身を厳しく律しながら、生涯にわたり自己の資質向上に努めることができる。 4. 統合的な学習経験と創造的思考力 <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い専門教育科目を学習することによって得た知識や技能を基に、相手の側に立って活用し、考え、行動することができる。 		
人間社会学部	人間健康学部	保育学科	食物栄養学科
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人への関心と学問の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な生活課題を抱えている人および世界の人々に肯定的な関心を 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人への関心と学問の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊厳や基本的人権を擁護できる高い倫理観を持つことができ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ・保育の本質と目的について理解している。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ・人の生の営みが自然の恩恵の上に成り立っていることを理解し、自分

<p>持ち、社会活動等を通じ、学問を深めることができる。</p> <p>2. 柔軟な思考と表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> 柔軟にものごとを考え、人の意見をよく聴いたうえで自分の考えを主張できる。 <p>3. 未知の領域に挑む意欲</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域社会および福祉や心理の現場において、新たな変化に怯まず、意欲的に対応することができる。 <p>4. 知識の応用力と判断力</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域社会および福祉や心理の現場において、問題点を明らかにし、教養教育・専門教育で培った様々な知見を基に、解決に向けて働きかけることができる。 <p>5. 地域に貢献する積極的態</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルな視点と同時にグローバルな視野をもち、地域に主体的に参加できる。 	<p>る。</p> <p>2. 柔軟な思考と表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広い教養を育むために、学問を探究し、批判的思考力を持つことができる。 <p>3. 未知の領域に挑む意欲</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護の現象・事象に対応できる高度な専門知識・技術を高める姿勢を持つことができる。 <p>4. 知識の応用力と判断力</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門職としての的確な判断を行い、質の高い看護を提供する能力を持つことができる。 <p>5. 地域に貢献する積極的態</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバルな社会における看護の役割を広い視野で捉え、社会に貢献する態度を持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育に関する基本的知識を修得している。 子どもの成長と発達に関する知識を理解している。 <p>2. 汎用的技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育内容をふまえた基本的な表現技術を適切に用いることができる。 子どもへの適切なあそびや養護の技術が身についている。 <p>3. 態度・志向性</p> <ul style="list-style-type: none"> チームワークを大切にし、他者と協調・協働して行動できる。 自身を振り返り省察し、ものごとを探究し続ける姿勢が身についている。 <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども一人ひとりの生活や発達過程に応じた援助を考えることができる。 保育者としての責任感と倫理観をもって行動することができる。 	<p>以外の他者や自然に対して、感謝の気持ちを持つことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 栄養士として必要な「社会生活と健康」、「人体の構造と機能」、「食品と衛生」、「栄養と健康」、「栄養の指導」、「給食の運営」に関する専門教育科目の知識と技能が身についている。 食品の栄養成分や調理特性、機能性や安全性など食品に関する幅広い知識と技能が身についている。 <p>2. 汎用的技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 栄養士として働くにあたって必要な技能と応用力（献立作成、調理及び給食管理など）が身についている。 対象者のライフステージや身体状況に応じた健康づくり支援をすることができる。 食品の流通や安全性、並びに食品成分の栄養特性や機能性などの食品に関連する基本的実験技能が身についている。 <p>3. 態度・志向性</p> <ul style="list-style-type: none"> 人と積極的にコミュニケーションを図り、協力して作業に取り組み、計画を進めることができる。 食の専門家であり続けるために、生涯にわたって新しい知識と技能を身につけながら、自己の資質向上に努めることができる。 <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広い専門教育科目を学習するこ
---	--	--	---

			とによって得た知識や技能を基に、主体的な研究活動やフィールド調査に取り組み、その結果をまとめることができる。
--	--	--	--

(4) CP (カリキュラムポリシー)

大学		短期大学部	
<p>1. <u>教育課程の編成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い視野や実践活動に必要なコミュニケーション能力を獲得するため、教養科目を教養教育科目とコミュニケーション科目の二つの科目群に分け、それぞれから卒業に必要な単位を修得するようにしています。 ・専門の現場における応用力や課題解決力を養うため、専門科目を基礎・基本的な科目と展開・統合的な科目の科目群に分け、それぞれから卒業に必要な単位を修得するようにしています。 ・初年次教育を重視し、1年生の必修科目に基礎ゼミナールを開講し、年間を通じて学習方法や、グループワークで自分の考えを主張する能力の修得を目指しています。 <p>2. <u>学修方法・学修過程</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習時間を確保するため、年間の履修登録単位数の上限を定めています。また成績が優秀な学生には、追加での履修登録を認めています。 ・全学的に、アクティブラーニングによる授業に取り組んでいます。これにより、学生が能動的な学習の仕方を身に付けます。 <p>3. <u>成績・学修成果の評価</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の評価は、「定期試験（中間・期末）」「小テスト、授業内レポート」「宿題、授業外レポート」「授業態度・授業参加度」「プレゼンテーション」「グループワーク」「演習」「実習」の8つの評価項目のうち複数組み合わせ、100点満点で総合評価します。 ・いずれかの学年において、専門の知識・技術の確認・評価を行います。 		<p>1. <u>教育課程の編成</u></p> <p>初年次教育を重視し、1年次を中心に、豊かな人間性を養う礎となる、キャリア、健康スポーツ、外国語など幅広い分野にわたる教養教育科目を設ける。1年次の教養教育必修科目に「大学入門」「キャリアデザイン」を開講し、大学での学習方法、社会人基礎力、職業意識の形成や就職活動の方法について修得させる。</p> <p>教育課程の編成に当たっては、専門資格を取得するために必要な知識と技能が体系的に学べるように科目を配置し、学生が理解できるようなカリキュラムマップを提供する。</p> <p>2. <u>学修方法・学修過程</u></p> <p>「実学の重視」を念頭に置いて、問題発見・論理的思考・課題解決の能力を育成するよう努める。</p> <p>グループ単位での能動的学修（アクティブラーニング）や、学内外の実習による体験型学習を取り入れることにより、他者との関わり中で実践的な実務教育が図れるように努める。</p> <p>3. <u>学修成果の評価</u></p> <p>成績評価にあたっては、シラバスに明示した各科目の到達目標、評価項目および評価基準にもとづき、各科目に適した評価方法を用いて公正かつ総合的に行います。</p>	
人間社会学部福祉心理学科	人間健康学部看護学科	保育学科	食物栄養学科
<p>(1) <u>教育課程の編成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い視野や実践活動に必要なコミュニケーション能力を獲得するた 	<p>(1) <u>教育課程の編成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程を教養教育科目と専門教育科目からカリキュラムを構築し 	<p>1. <u>教育課程の編成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育を重視し、1年次を中心に、豊かな人間性を養う礎となる、 	<p>1. <u>教育課程の編成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育を重視し、1年次を中心に、豊かな人間性を養う礎となる、

<p>め、教養科目を社会教養教育科目とコミュニケーション科目の二つの科目群に分け、それぞれから卒業に必要な単位を修得するようにしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会および福祉や心理の現場における応用力や課題解決力を養うため、専門科目を専門基礎科目と専門展開科目の二つの科目群に分け、それぞれから卒業に必要な単位を修得するようにしています。 ・初年次教育を重視し、1年生の必修科目に基礎ゼミナールⅠ・Ⅱを開講し、年間を通じて学習方法や、グループワークで自分の考えを主張する能力の修得を目指しています。 ・2年次前期に総合演習Ⅰ、後期に総合演習Ⅱ、3年次前期に総合演習Ⅲ、後期に総合演習Ⅳ、4年次通年で卒業研究といったゼミナール形式の科目を必修としています。1年次の基礎ゼミナールⅠ・Ⅱと合せて、4年間を通じていずれかのゼミナールに所属することで、課題発見・解決力やディスカッション・プレゼンテーション力の育成を行います。 ・社会人基礎力の修得や、キャリア形成を考える科目であるキャリア支援Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを必修科目としています。 	<p>ています。教養教育科目では、広い視野を持ち、多元的に物事を考え、新しい状況下でも的確に対応していく力のある学士を育成するために、幅広い知識を身につけていけるよう支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門の現場における応用力や課題解決力を養うため、専門科目を「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基本」「看護実践の展開・応用」「看護学の統合」といった科目群に分け、それぞれから卒業に必要な単位を修得するようにしています。 ・初年次教育を重視し、1年生の必修科目に基礎ゼミナールを開講し、年間を通じて学習方法や、グループワークで自分の考えを主張する能力の修得を目指しています。 ・看護学科の主要な4つの概念である人間・健康・社会・看護とそれらの関係性にもとづき、学修する内容の順序性、関係性を踏まえて教科目を配置しています。 ・主体的に学び、考え、様々な状況に対応できる力を身につけられるよう各科目では主体的な学びを推進しています。 <p>(2) <u>学修方法・学修過程</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習時間を確保するため、年間の履修登録単位数の上限を55単位と定めています。また成績が優秀な学生には、追加での履修登録を認めています。 	<p>キャリア、健康スポーツ、外国語など幅広い分野にわたる教養教育科目を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次の教養教育必修科目に「大学入門」、「キャリアデザイン」を開講して、大学での学習方法、社会人基礎力、職業意識の形成や就職活動の方法について修得させる。 ・教育職員免許法施行規則と児童福祉法施行規則に定める科目を中心にカリキュラムを編成し、子どもの成長や発達についての理解、保育者に求められる専門的な知識・技術及び倫理の修得を図る。 ・最新の保育・幼児教育・子育て支援の動向に対応し、また保育者に求められるスキルをより深化・拡充させるものとして社会福祉主事任用資格、認定ベビーシッター資格、児童厚生二級指導員資格、レクリエーション・インストラクター資格、公認障がい者スポーツ指導員資格の取得を可能とし、より広い視野と見識を育成する。 <p>2. <u>学修方法・学修過程</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合演習Ⅰ～Ⅳ」は卒業必修科目として位置づけ、問題発見、論理的思考、課題解決の能力を育成する。 ・実習および実習の事前指導・事後指導を重視し、保育現場の役割・機能や子どもの現状、保育の展開方法を体験的に学ぶことで、保育者としての実践力が身につくようにす 	<p>キャリア、健康スポーツ、外国語など幅広い分野にわたる教養教育科目を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次の教養教育必修科目に「大学入門」、「キャリアデザイン」を開講して、大学での学習方法、社会人基礎力、職業意識の形成や就職活動の方法について修得させる。 ・栄養士法施行規則に定められている教育内容と単位数を満たす科目に加え、食の専門家として必要な最新の知見と技能を養うための体系的なカリキュラム編成とする。 ・栄養士としての実践力、社会人としての社会力を養うために、学外活動等で地域や学外他組織との連携を図り、知識と技能を身につけることのできる実学を重視したカリキュラム編成とする。 ・専門教育の理解、学習成果については、全国栄養士養成施設協会「栄養士実力認定試験」の評価結果により、栄養士として必要な知識・技能を段階評価し、資質向上に向けたカリキュラム編成とする。 <p>2. <u>学修方法・学修過程</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食物栄養ゼミ」は卒業必修科目として位置づけ、問題発見、論理的思考、課題解決の能力を育成する。 <p>3. <u>学修成果の評価</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価にあたっては、シラバスに明示した各科目の到達目標、評価項目および評価基準にもとづき、
--	---	--	--

<p>(2) <u>学修方法・学修過程</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習時間を確保するため、年間の履修登録単位数の上限を60単位と定めています。また成績が優秀な学生には、追加での履修登録を認めています。 ・アクティブラーニングによる授業に取り組んでいます。これにより、学生が能動的な学習の仕方を身に付けます。学生のボランティア活動を推奨し、周知・支援しています。また、インターンシップ体験を卒業単位として認めています。 ・初年次に心理学専攻と社会福祉学専攻を選択し、各専攻に適した科目の履修をします。広い視野獲得のため、お互いの専攻の科目も選択科目として履修します。 <p>(3) <u>成績・学修成果の評価</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の評価は、「定期試験(中間・期末)」「小テスト、授業内レポート」「宿題、授業外レポート」「授業態度・授業参加度」「プレゼンテーション」「グループワーク」「演習」「実習」の8つの評価項目のうち複数組み合わせ、100点満点で総合評価します。 ・4年生に対して、それぞれの専門に関する、知識・技術の確認・評価を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学的に、アクティブラーニングによる授業に取り組んでいます。これにより、学生が能動的な学習の仕方を身に付けます。 ・保健師受験資格を取得したい学生は、2年次終了時にGPAや面談による評価により、3年次以降、保健師関連科目の履修を認められます。 <p>(3) <u>成績・学修成果の評価</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の評価は、「定期試験(中間・期末)」「小テスト、授業内レポート」「宿題、授業外レポート」「授業態度・授業参加度」「プレゼンテーション」「グループワーク」「演習」「実習」の8つの評価項目のうち複数組み合わせ、100点満点で総合評価します。 ・4年生の必修科目の中で、看護の総合的な知識・技術の確認・評価を行います。 	<p>る。</p> <p>3. <u>学修成果の評価</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価にあたっては、シラバスに明示した各科目の到達目標、評価項目および評価基準にもとづき、各科目に適した評価方法を用いて公正かつ総合的にを行います。 	<p>各科目に適した評価方法を用いて公正かつ総合的にを行います。</p>
--	--	---	--------------------------------------

(5) キャンパスガイドに記載している教育内容

人間社会学部福祉心理学科	人間健康学部看護学科	保育学科	食物栄養学科
年次進行の概要、履修モデル、カリキュラム編成、卒業要件、卒業研究及び学外実習の履修要件、免許資格等の取得に必要な履修科目などに関する記載あり。	教育課程の概念、年次別カリキュラムの概略、カリキュラム編成、免許資格等の取得のための履修方法などに関する記載あり。	履修方法、卒業要件、免許資格の取得方法に関する記載はあるが、カリキュラム編成の考え方に関する記載はない。	

(6) 新入生アンケート（平成 30 年度）

1) 建学の精神

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
よくわかっている	10	10.8	7	8.4
大体わかっている	49	52.7	60	72.3
あまりわかっていない	33	35.5	16	19.3
全く分かっていない	1	1.1	0	0.0
計	93	100	83	100

2) 教育理念

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
よくわかっている	15	16.1	5	6.0
大体わかっている	50	53.8	50	60.2
あまりわかっていない	27	29.0	28	33.7
全く分かっていない	1	1.1	0	0.0
計	93	100	83	100

3) 3つのポリシー

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
よくわかっている	12	12.9	10	11.9
大体わかっている	47	50.5	50	59.5
あまりわかっていない	32	34.4	23	27.4
全く分かっていない	2	2.2	1	1.2
計	93	100	84	100

2. 教育の実施に関する資料

(1) シラバス

1) 授業評価

	大学	短期大学部
問 4 授業内容はシラバスに沿ったものですか。	3.28	3.18
問 5 教員はシラバスをみるように促しましたか。	3.15	3.09

*全質問の平均得点は、大学 3.26、短期大学部 3.20 であった。

(2) 授業改善の手立て

1) 授業評価（全質問の平均得点は、大学 3.26、短期大学部 3.20 であった。）

授業計画

	大学	短期大学部
問 6 教材など、全体としてよく準備された授業でしたか。	3.34	3.30
問 7 この授業の全体としての難易度は適切でしたか。	3.24	3.18
問 8 課題（レポート、予習、復習）の量は適切でしたか。	3.29	3.20

授業方法の工夫（アクティブラーニングを含む）

	大学	短期大学部
問 9 教員の話し方や声は聞き取りやすかったですか。	3.28	3.26
問 10 教員は授業の中で理論や考え方、専門用語などをわかりやすく説明していましたか。	3.32	3.24

問 11 教員の授業の進め方は学生の反応や理解度・達成度を配慮したものでしたか。	3.24	3.18
問 12 黒板や映像資料は授業内容の理解に役立ちましたか。	3.31	3.22
問 16 教員は学生同士で共同作業や意見交換、課題解決などを行わせましたか。	3.26	3.21

教員の対応

	大学	短期大学部
問 13 教員は学生の質問や疑問に適切に対応しましたか。	3.30	3.24
問 14 教員の熱意を感じましたか。	3.35	3.28
問 15 小テストやレポートなどを実施し、コメント等を返しましたか。	3.17	3.12
問 17 教員は学生が意欲的に参加できるような雰囲気づくりに努めましたか。	4.37	4.21

2) 学習行動調査 (学習経験に関する質問)

質問 26 授業内容に関するコメントや意見を書く機会のある授業

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
多く経験している	102	28.5	49	31.4
ときどき経験している	202	56.4	93	59.6
あまり経験していない	49	13.7	10	6.4
ほとんど経験していない	5	1.4	4	2.6
計	358	100	156	100

質問 27 教員・学生間で授業時間内にコミュニケーションが取りやすい授業

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
多く経験している	72	20.2	45	28.8
ときどき経験している	215	60.2	84	53.8
あまり経験していない	63	17.6	25	16.0
ほとんど経験していない	7	2.0	2	1.3
計	357	100	156	100

質問 28 レポートなどの提出物に教員のコメント付きで返却される授業

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
多く経験している	57	15.9	28	17.9
ときどき経験している	177	49.4	92	59.0
あまり経験していない	102	28.5	33	21.2
ほとんど経験していない	22	6.1	3	1.9
計	358	100	156	100

質問 29 学生の意見や授業評価の結果を反映させた授業

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
多く経験している	49	13.7	28	17.9
ときどき経験している	181	50.6	79	50.6
あまり経験していない	111	31.0	42	26.9
ほとんど経験していない	17	4.7	7	4.5
計	358	100	156	100

質問 30 グループワークやディスカッションなど協同作業の機会がある授業

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
多く経験している	142	39.8	66	42.3
ときどき経験している	184	51.5	76	48.7
あまり経験していない	27	7.6	12	7.7
ほとんど経験していない	4	1.1	2	1.3
計	357	100	156	100

質問 31 自分に役立つと感じる授業

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
多く経験している	118	33.0	57	36.5
ときどき経験している	190	53.1	80	51.3
あまり経験していない	40	11.2	17	10.9
ほとんど経験していない	10	2.8	2	1.3
計	358	100	156	100

質問 32 楽しいと感じ、やる気が増大する授業

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
多く経験している	46	12.8	30	19.2
ときどき経験している	191	53.4	78	50.0
あまり経験していない	96	26.8	38	24.4
ほとんど経験していない	25	7.0	10	6.4
計	358	100	156	100

3. 主観的学習成果に関する資料

(1) 主体的学習習慣の獲得

1) 授業評価 (全質問の平均得点は、大学 3.26、短期大学部 3.20 であった。)

	大学	短期大学部
質問 18 この授業のあなたの出席率は () %でしたか。 1 : 20%、2 : 40%、3 : 60%、4 : 80%、5 : 100%	4.37	4.22
質問 19 授業中は熱心に取り組みましたか。	3.36	3.27
質問 20 質問や発言などにより、授業に積極的に参加しましたか。	3.00	3.07

2) 学生生活実態調査

質問 26 あなたは質問や相談のために教員を訪れる際、オフィスアワーを利用していますか。

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
知らず、研究室をたずねることがない	192	51.3	76	43.2
知らず、関係なく研究室を訪ねる	65	17.4	35	19.9
知っているが、関係なく研究室を訪ねる	96	25.7	61	34.7
オフィスアワーを意識して、研究室を訪ねる	21	5.6	4	2.3
計	374	100	176	100

質問 27 あなたの図書館の利用頻度は次のうちどれですか。

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
ほぼ毎日利用	14	3.7	0	0.0
週に数回利用	104	27.5	29	16.6
ほとんど利用しない	192	50.8	115	65.7
全く利用しない	68	18.0	31	17.7
計	378	100	175	100

質問 28 あなたの PC 演習室の利用頻度は次のうちどれですか。

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
ほぼ毎日利用	42	11.1	13	7.4
週に数回利用	164	43.4	119	67.6
ほとんど利用しない	153	40.5	37	21.0
全く利用しない	19	5.0	7	4.0
計	374	100	176	100

3) 学習行動調査

質問 14 授業の予習をする

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
とてもあてはまる	27	7.5	12	7.8
まああてはまる	113	31.6	29	19.0
あまりあてはまらない	151	42.2	56	36.6
全くあてはまらない	67	18.7	56	36.6
計	358	100	153	100

質問 23 授業の復習をする

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
とてもあてはまる	46	12.8	12	7.7
まああてはまる	147	41.1	39	25.0
あまりあてはまらない	131	36.6	71	45.5
全くあてはまらない	34	9.5	34	21.8
計	358	100	156	100

質問 21 グループワークやディスカッションでは積極的に参加する

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
とてもあてはまる	104	29.1	36	22.9
まああてはまる	181	50.7	76	48.4
あまりあてはまらない	60	16.8	34	21.7
全くあてはまらない	12	3.4	11	7.0
計	357	100	157	100

質問 22 授業への質問があるときは教員に伝える

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
とてもあてはまる	45	12.6	18	11.5
まああてはまる	106	29.7	67	42.9
あまりあてはまらない	147	41.2	50	32.1
全くあてはまらない	59	16.5	21	13.5
計	357	100	156	100

質問 25 授業でわからなかったことは自分で調べる

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
とてもあてはまる	100	27.9	31	19.7
まああてはまる	180	50.3	64	40.8
あまりあてはまらない	61	17.0	45	28.7
全くあてはまらない	17	4.7	17	10.8
計	358	100	157	100

(2) 学習時間

1) 授業評価

	大学	短期大学部
質問 21 この授業 1 回 (90 分) のための予習、復習に費やした時間は平均 () 時間でしたか。 1 : 30 分以下、2 : 1 時間、3 : 2 時間、4 : 3 時間、5 : 4 時間以上	1.99	1.80

2) 学習行動調査

質問 4 授業の予習復習のための時間

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1 時間未満	107	29.9	87	55.4
1~2 時間	106	29.6	38	24.2
3~5 時間	59	16.5	22	14.0
6~10 時間	56	15.6	8	5.1
11~15 時間	11	3.1	0	0.0
16~20 時間	6	1.7	2	1.3
21 時間以上	13	3.6	0	0.0
計	358	100	157	100
	平均学習時間	4.0 時間/週	平均学習時間	1.8 時間/週

質問 5 課題やレポート作成のための時間

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1 時間未満	45	12.6	23	14.7
1~2 時間	68	19.0	52	33.3
3~5 時間	125	34.9	51	32.7
6~10 時間	69	19.3	24	15.4
11~15 時間	29	8.1	4	2.6
16~20 時間	8	2.2	2	1.3
21 時間以上	14	3.9	0	0.0
計	358	100	156	100
	平均学習時間	5.6 時間/週	平均学習時間	3.6 時間/週

質問 6 資格免許取得のための時間

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1 時間未満	163	45.8	82	52.2
1～2 時間	73	20.5	42	26.8
3～5 時間	50	14.0	26	16.6
6～10 時間	26	7.3	4	2.5
11～15 時間	13	3.7	2	1.3
16～20 時間	7	2.0	1	0.6
21 時間以上	24	6.7	0	0.0
計	356	100	157	100
	平均学習時間	3.9 時間/週	平均学習時間	1.8 時間/週

質問 7 社会活動のための時間

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1 時間未満	277	78.5	126	80.3
1～2 時間	45	12.7	20	12.7
3～5 時間	21	5.9	9	5.7
6～10 時間	9	2.5	1	0.6
11～15 時間	1	0.3	0	0.0
16～20 時間	0	0.0	1	0.6
21 時間以上	0	0.0	0	0.0
計	353	100	157	100
	平均学習時間	1.1 時間/週	平均学習時間	1.0 時間/週

(3) 自己の成長の実感

1) 授業評価 (全質問の平均得点は、大学 3.26、短期大学部 3.20 であった。)

	大学	短期大学部
質問 22 シラバスに記載されている到達目標は () 割程度達成できた。	3.41	3.31
質問 23 授業から刺激を受けて、その分野や関連分野の ことをもっと知りたいと思った。	3.24	3.11

2) 学生生活実態調査

質問 31 専門分野について学ぶ

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
できている	137	36.3	62	35.4
少しできている	171	45.4	82	46.9
あまりできていない	55	14.6	26	14.9
できていない	14	3.7	5	2.9
計	377	100	175	100

質問 33 専門に限らず幅広い知識や教養を身につける

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
できている	90	23.9	31	17.6
少しできている	176	46.8	89	50.6
あまりできていない	98	26.1	48	27.3
できていない	12	3.2	8	4.5
計	376	100	176	100

質問 29 自己の将来の方向性を見つける

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
できている	145	38.5	54	30.9
少しできている	157	41.6	85	48.6
あまりできていない	60	15.9	27	15.4
できていない	15	4.0	9	5.1
計	377	100	175	100

質問 30 将来の仕事に役立つような力を身につける

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
できている	138	36.6	55	31.4
少しできている	180	47.7	90	51.4
あまりできていない	49	13.0	24	13.7
できていない	10	2.7	6	3.4
計	377	100	175	100

質問 36 就職につながる学習や資格取得に力を入れる

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
できている	88	23.4	41	23.6
少しできている	153	40.7	90	51.7
あまりできていない	97	25.8	38	21.8
できていない	38	10.1	5	2.9
計	376	100	174	100

質問 37 大学・学科の行事に参加する

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
できている	62	18.2	63	35.8
少しできている	148	43.5	65	36.9
あまりできていない	83	24.4	43	24.4
できていない	47	13.8	5	2.8
計	340	100	176	100

質問 32 友人をつくり、人間関係に関する豊かな経験をする

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
できている	197	52.4	80	45.7
少しできている	126	33.5	76	43.4
あまりできていない	42	11.2	16	9.1
できていない	11	2.9	3	1.7
計	376	100	175	100

質問 34 卒業までの自由な時間を満喫する

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
できている	146	38.7	53	30.3
少しできている	154	40.8	79	45.1
あまりできていない	58	15.4	33	18.9
できていない	19	5.0	10	5.7
計	377	100	175	100

質問 35 ボランティアなど他人のために行動する経験をする

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
できている	63	16.8	25	14.2
少しできている	128	34.0	54	30.7
あまりできていない	125	33.2	62	35.2
できていない	60	16.0	35	19.9
計	376	100	176	100

3) 満足度調査

質問 60 授業についていくための予習復習などの習慣

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
かなり身についた	24	7.0	9	6.1
ある程度身についた	182	52.8	65	44.2
あまり身につけていない	127	36.8	53	36.1
全く身につけていない	12	3.5	20	13.6
計	345	100	147	100

質問 71 コンピュータを用いた課題や発表資料の作成方法

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
かなり身についた	91	25.4	46	29.7
ある程度身についた	213	59.5	86	55.5
あまり身につけていない	49	13.7	20	12.9
全く身につけていない	5	1.4	3	1.9
計	358	100	155	100

質問 62 疑問に思ったことを教員や友人に質問する積極性

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
かなり身についた	67	18.7	29	18.6
ある程度身についた	212	59.2	89	57.1
あまり身につけていない	68	19.0	31	19.9
全く身につけていない	11	3.1	7	4.5
計	358	100	156	100

質問 66 自分から進んで知識や経験を得ようとする事

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
かなり身についた	75	20.9	27	17.4
ある程度身についた	235	65.6	94	60.6
あまり身につけていない	43	12.0	30	19.4
全く身につけていない	5	1.4	4	2.6
計	358	100	155	100

質問 73 現状を分析し、問題点や課題を発見すること

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
かなり身についた	56	15.6	21	13.5
ある程度身についた	237	66.2	99	63.5
あまり身につけていない	62	17.3	32	20.5
全く身につけていない	3	0.8	4	2.6
計	358	100	156	100

質問 74 問題が生じたときに適切に対処する力

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
かなり身についた	57	16.0	22	14.3
ある程度身についた	235	65.8	100	64.9
あまり身につけていない	59	16.5	30	19.5
全く身につけていない	6	1.7	2	1.3
計	357	100	154	100

質問 64 将来の目標を立て実現に向けて努力すること

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
かなり身についた	59	16.5	24	15.4
ある程度身についた	219	61.2	93	59.6
あまり身につけていない	71	19.8	35	22.4
全く身につけていない	9	2.5	4	2.6
計	358	100	156	100

質問 65 人と協力しながら活動すること

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
かなり身についた	104	29.1	41	26.5
ある程度身についた	215	60.1	95	61.3
あまり身につけていない	32	8.9	17	11.0
全く身につけていない	7	2.0	2	1.3
計	358	100	155	100

(4) 満足度

1) 授業評価

	大学	短期大学部
質問 24 この授業は総合的に見て満足でしたか	3.29	3.19

*全質問の平均得点は、大学 3.26、短期大学部 3.20 であった。

2) 入学生調査

質問 61 あなたは本学に入学して現在どの程度満足していますか。

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
とても満足している	29	34.1	18	22.0
満足している	3	40.0	43	52.4
どちらともいえない	20	23.5	18	22.0
あまり満足していない	2	2.4	3	3.7
計	85	100	82	100

3) 満足度調査

質問 33 教員と学生の一般的な人間関係

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
とても満足である	68	19.0	53	34.0
やや満足である	254	70.9	86	55.1
やや不満である	32	8.9	16	10.3
とても不満である	4	1.1	1	0.6
計	358	100	156	100

質問 34 専門科目の教育内容の質

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
とても満足である	63	17.6	38	24.4
やや満足である	238	66.7	99	63.5
やや不満である	50	14.0	15	9.6
とても不満である	6	1.7	4	2.6
計	357	100	156	100

質問 35 専門科目の授業方法や評価のあり方

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
とても満足である	49	13.7	31	19.9
やや満足である	238	66.7	101	64.7
やや不満である	65	18.2	22	14.1
とても不満である	5	1.4	2	1.3
計	357	100	156	100

質問 36 教養科目の教育内容の質

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
とても満足である	57	16.1	36	23.1
やや満足である	237	66.9	99	63.5
やや不満である	54	15.3	19	12.2
とても不満である	6	1.7	2	1.3
計	354	100	156	100

質問 37 教養科目の教育方法や評価のあり方

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
とても満足である	58	16.3	38	24.4
やや満足である	241	67.9	98	62.8
やや不満である	50	14.1	19	12.2
とても不満である	6	1.7	1	0.6
計	355	100	156	100

質問 38 チューター及びゼミ教員の指導・対応

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
とても満足である	120	33.5	60	39.0
やや満足である	199	55.6	74	48.1
やや不満である	32	8.9	17	11.0
とても不満である	7	2.0	3	1.9
計	358	100	154	100

質問 40 事務（教務課、学生課など）の学生への対応

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
とても満足である	89	25.0	60	38.7
やや満足である	194	54.5	83	53.5
やや不満である	58	16.3	8	5.2
とても不満である	15	4.2	4	2.6
計	356	100	155	100

質問 41 就職支援・就職相談などの就職関連サービス

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
とても満足である	145	41.3	42	27.3
やや満足である	185	52.7	92	59.7
やや不満である	17	4.8	19	12.3
とても不満である	4	1.1	1	0.6
計	351	100	154	100

質問 42 身体面や精神面についての相談サービス（保健室、心理相談窓口）

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
とても満足である	94	26.8	42	27.3
やや満足である	223	63.5	93	60.4
やや不満である	29	8.3	15	9.7
とても不満である	5	1.4	4	2.6
計	351	100	154	100

質問 79 あなたは今、本学の学生であることにどの程度満足していますか

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
とても満足している	38	11.2	27	18.4
まあ満足している	223	66.0	91	61.9
あまり満足していない	61	18.0	23	15.6
全く満足していない	16	4.7	6	4.1
計	338	100	147	100

6. 客観的学習成果に関する資料

(1) GPA の分布

	大学	短期大学部
1 年生	2.68	2.40
2 年生	2.46	2.40
3 年生	2.56	—
4 年生	2.27	—
全体	2.48	2.40
下位 4 分の 1 の GPA	1.79	1.89

(2) 成績評価の分布

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
秀	3770	14.2	1255	15.4
優	10280	38.8	2545	31.2
良	7063	26.7	2437	29.9
可	5083	19.2	1860	22.8
不可	286	1.1	62	0.8
計	26482	100	8160	100

(3) 国家試験合格率

	看護師	保健師	社会福祉士	精神保健福祉士
受験者数	88	9	6	2
合格者数	77	6	0	1
合格率	87.5%	66.7%	0.0%	50.0%

7. AP（アドミッションポリシー）の策定・公表に関する資料

大学	短期大学部		
<p>1. <u>求める学生像</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間に対する強い関心を、理論・実践を通じて身に付けることができる人 ・柔軟な考え方を、人の意見をよく聞く態度を通じて、身に付けることができる人 ・フロンティア精神を、新しいことに挑戦し、課題を発見していくことで身に付けることができる人 ・地域と世界の重要性を、ローカルな視点とグローバルな思考で地域に主体的に参加していくことで認識することができる人 ・専門の現場で展開する幅広い教養及び専門的知識・技術・判断力を、本学の学士課程を通じて身に付けることができる人 <p>2. <u>入試選抜について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学では、求める学生像受け入れのため、教科の試験や高等学校からの推薦、センター試験を利用した試験等、多様な入試選抜を実施します。 <p>3. <u>入学前教育について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学教育を受けるのに必要な基礎的能力の向上のため、本学は入学予定者に課題を与え、その提出を求めます。もしくは、入学までに学習しておくべき項目を提示します。 	<p>1. <u>求める学生像</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校までに履修する教科の基本的な内容を理解している人。 ・日常生活上の問題に興味・関心を持ち、自分で調べて解決しようとする人。 ・人に対して優しい気持ちを持ち、その人のために行動できる人。 ・他者と関わりながら、会話を通じて相手を理解し、自分を表現しようとする人。 <p>2. <u>入試選抜</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学で求める学生像を、推薦入試、A0型入試およびA0型社会人入試において面接と書類審査、一般入試では、学力試験と面接、書類審査において確認します。 <p>3. <u>入学前教育</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学教育を受けるのに必要な基礎的能力の向上のため、入学予定者に課題を与え、その提出を求めます。または入学までに学習しておくべき内容を提示します。 		
人間社会学部福祉心理学科	人間健康学部看護学科	保育学科	食物栄養学科
<p>1. <u>求める学生像</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な生活課題を抱えている人々および世界の人々に肯定的な関心を、講義や実習および主体的な社会貢献活動を通して身に付けていこうとする意欲のある人 ・他人の意見をよく聴き、受け入れていくことで、自分の考えを述べる、または状況に応じて変えられる柔軟性を持つようとする人 ・新しいことに挑戦し、課題を発見していくことで、フロンティア精神 	<p>1. <u>求める学生像</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々とのかかわりに関心を持ち、その人らしさを感じることができる人 ・自分の考えを持つと同時に他者の意見も柔軟に取り入れる人 ・新しいことにチャレンジし、自らの課題を見つけることができる人 ・地域と世界の重要性を、ローカルな視点とグローバルな思考で地域に主体的に参加していくことで認識することができる人 	<p>1. <u>求める学生像</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校までに履修する教科の内容を広く理解している人。 ・日常のさまざまな出来事に興味・関心を持ち、研究心旺盛な人。 ・子どもの保育や幼児教育について興味・関心を深く持ち、将来保育士や幼稚園教諭など子どもと関わる分野で活躍したいという熱意のある人。 ・他者と積極的にコミュニケーションをとり、協調してものごとに取り組むことができる人。 	<p>1. <u>求める学生像</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門教育科目を学ぶ基礎学力を身につけている人。 ・食や健康に興味があり、栄養士免許取得を目指している人。 ・自分の食生活を大切にし、将来に向けた健康づくりが実践できる人。 ・栄養士として、地域の人々の健康に貢献したいと思っている人。 <p>2. <u>入試選抜</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学科で求める学生像を、推薦入試、A0型入試およびA0型社会人入

<p>を身に付けていこうとする人</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルな視点とグローバルな視野をもって地域に主体的に参加していくことで、世界における地域の重要性や課題を認識していこうとする人 医療・福祉・心理などの現場で展開する幅広い教養及び専門的知識・技術・判断力を、本学の学士課程を通じて身に付けることができる人 <p>2. <u>入試選抜について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 人間社会学部福祉心理学科では、求める学生像受け入れのため、教科の試験や高等学校からの推薦、センター試験を利用した試験等、多様な入試選抜を実施します。 <p>3. <u>入学前教育について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 大学教育を受けるのに必要な基礎的能力の向上のため、人間社会学部福祉心理学科は入学予定者に本学が重視するコミュニケーションに関するアクティブラーニングの機会を提供します。もしくは、レポート等の課題を与え、その提出を求めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 人々の健康に関心がある人 <p>2. <u>入試選抜について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 人間健康学部看護学科では、求める学生像受け入れのため、教科の試験や高等学校からの推薦、センター試験を利用した試験等、多様な入試選抜を実施します。 <p>3. <u>入学前教育について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 大学教育を受けるのに必要な基礎的能力の向上のため、人間健康学部看護学科は入学予定者に課題を与え、その提出を求めます。もしくは、入学までに学習しておくべき項目を提示します。 	<p>り組む態度が見られる人。</p> <p>2. <u>入試選抜</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 本学科で求める学生像を、推薦入試、A0型入試およびA0型社会人入試においては面接と書類審査、一般入試では学力試験と面接、書類審査において確認します。 <p>3. <u>入学前教育</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 大学教育を受けるのに必要な基礎的能力の向上のため、入学予定者に課題を与え、その提出を求めます。または入学までに学習しておくべき内容を提示します。 	<p>試においては面接と書類審査、一般入試では学力試験と面接、書類審査において確認します。</p> <p>3. <u>入学前教育</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 大学教育を受けるのに必要な基礎的能力の向上のため、入学予定者に課題を与え、その提出を求めます。または入学までに学習しておくべき内容を提示します。
---	--	--	---

6. 選抜方法に関する資料

(1) 選抜方法と学力の3要素

大学（2020年入学者募集要項）

	知識・技能			思考力・判断力・表現力等		主体性・多様性・協働性
	センター試験	学力試験	調査書	小論文	プレゼンテーション	面接
指定校推薦入試			○		○	○
一般推薦入試			○	○		○
一般入試		○	○			○
センター試験利用入試	○		○			
AO入試			○		○	○
社会人AO入試						○
社会人特別入試				○		○
帰国子女・外国人AO入試				○		○

短期大学部（2020年入学者募集要項）

	知識・技能			思考力・判断力・表現力等		主体性・多様性・協働性
	センター試験	学力試験	調査書	小論文	プレゼンテーション	面接
指定校推薦入試			○			○
一般推薦入試			○			○
一般入試		○	○			○
AO入試			○			○
社会人AO入試						○
帰国子女・外国人入試				○		○

7. 入学後の追跡調査

(1) 入試区分別累積 GPA の推移

・大学

	香川特別	指定校	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ	A日程	B日程	センター	A0	A0社会人	計
看護学科	3.50	2.36	2.14	2.35	2.39	2.15	2.65	1.93	2.47	2.38
福祉心理学科	-	2.61	2.23	2.71	2.59	2.18	3.03	2.37	2.46	2.69

・短期大学部

	香川特別	指定校	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ	A日程	B日程	C日程	A0	A0社会人	計
保育学科	2.45	2.42	1.54	2.19	1.98	3.41	2.99	1.44	3.75	2.31
食物栄養学科	2.22	2.62	2.18	2.40	3.23	2.67	3.15	1.54	3.47	2.50

(2) 入試区分別退学率、留年率

・大学（平成26・27年度入学生について、卒業時の集計）

	香川特別	指定校	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ	A日程	B日程	センター	A0	A0社会人	計
入学者数	0	63	21	10	69	14	49	12	3	241
退学者数	0	2	0	0	4	2	2	0	0	10
退学率 (%)	-	3.2	0.0	0.0	5.8	14.3	4.1	0.0	0.0	4.1
留年者数	0	5	0	1	4	1	2	1	1	15
留年率 (%)	-	7.9	0.0	10.0	5.8	7.1	4.1	8.3	33.3	6.2

・短期大学部（平成28・29年度入学生について、卒業時の集計）

	香川特別	指定校	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ	A日程	B日程	C日程	A0	A0社会人	計
入学者数	59	62	21	3	6	4	12	17	4	188
退学者数	4	4	5	0	1	0	0	3	0	17
退学率 (%)	6.8	6.5	23.8	0.0	16.7	0.0	0.0	17.6	0.0	9.0
留年者数	0	1	0	1	0	0	0	1	0	3
留年率 (%)	0.0	1.6	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	1.6